

東奥日報

2019年(令和元年)6月4日(火曜日) (12)

助成受けた研究報告

八戸工大で多分野の8人

八戸

県工業技術教育振興会(理事長・長谷川明八戸工業大学学長)は5月30日、2018年度に同振興会から研究助成を受けた若手研

究者による成果報告会を八戸市の同大で開いた。工学や教育、スポーツなど多様な分野の8人が発表した。同大システム情報工学科の伊藤智也准教授は、プログラミング教育の必修化に向けた教材研究を発表。授業時間が限られている一方で、より高度な技術の習得

が求められている」とし「進展が著しいIT技術を身に付けるには、学生が興味を持つコンテンツに触れる機会を積極的につくる必要がある」と強調した。

同大基礎教育研究センターの大室康平講師は「野球のバッティングにおける素振りのトレーニング効果の検討」と題して報告。野球未経験者の素振り動作の分析結果を示しながら、「未経験者はバット位置のばらつきが大きくなる傾向がある。効果的な素振りを行うには目標物を設置したり、映像や他者の助言などフィードバックを活用することが必要」と指摘した。



研究成果を発表する若手研究者

(工藤俊介)

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」